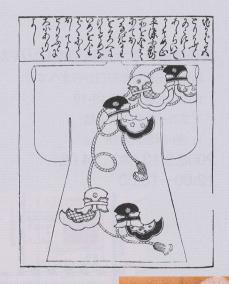


波に網目模様小袖

寛文4年(1664)の10月、東福門院が57歳の時に誂えた最高級品の小袖。

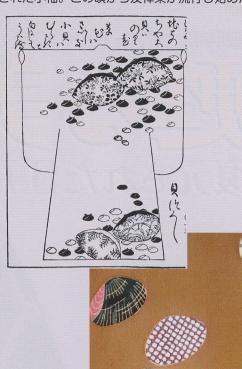


鳥兜模様小袖

天和4年(1684)の『当世早流雛形』に掲載された小袖。唐染と正平染という珍しい技法で模様を染めた。

貝尽し模様小袖

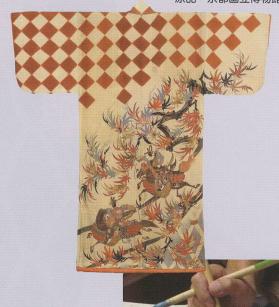
貞享5年(1688)の『友禅ひいながた』に掲載された小袖。この頃から友禅染が流行し始めた。



賀茂競馬模様小袖

京都の上賀茂神社で5月5日に行われる競馬の模様を友禅染であらわす。友禅染特有の多彩な色挿しと繊細な糸目糊が美しい江戸時代中期の小袖。

原品 京都国立博物館蔵



関西学院大学アート・インスティチュートでは文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業(産学連携研究推進事業)として「江戸時代の小袖に関する復元的研究」(2003 年度~ 2007 年度)と題するブロジェクトを行ってきました。このブロジェクトは京都で活動する着物職人のグループ「染技連」との共同研究により、江戸時代の小袖(きもの)を復元的に研究することで、過去の優れた染色技法を解明し、それを受け継ぐ伝統的な職人芸の保存を図ることを目的としています。